



荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 鎌田博一
編集責任者 佐藤敏幸

No.1837

2019年

12月5日

国労加入を 大胆に訴えよう

なければいけない。

伏見 季之

(上野支部・東京通信技術センター)

今年度四月から会社の施策により、新しいグループ編成になった。工事グループにはベテランを主体に、管理グループには若手主体に再編成された。若手主体のグループは仕事を回すのに必死である。工事グループに回された若手も来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた施策工事があつたため、毎日超勤をしなければ仕事は回らない。

今回二回目の職場代表者選挙があつた。国労組合員八名のところ一〇票で票の上積みとなつた。「私は国労の人が当選した方がよいと思つた。社友会の立候補した人はやる気がないのに票が入るのはおかしい。この職場の常識を疑う」と言う人もいた。

来年開催のオリンピック・パラリンピックについて。延長運転や混雑対策時差通勤、設備職場では工事について長期にわたる作業規制、線路検査も実施時期の変更が議論されている。一方的に実施されれば、JR関係すべての人の労働条件や生活、さらには安全安定輸送に大きく影響する。一年を切つていの中で早急に要求準備を進めるべきである。台風一五号の影響で三三発動により労働条件が大きく変更された。国労東京として会社の一方的な労働条件の変更を許さない取り組みを要請する。

職場代表者選挙には社友会から三〇歳代の主任、東労組からは二〇代の女性社員が立候補した。国労は自主投票とした。当選者は東労組の女性社員であつた。社友会に加入している社員も決して一枚岩ではない。私たちは組織拡大の取り組みを強化し、新入社員獲得に向けた取り組みはもとより、日々の職場の変化、社員の愚痴、不平不満や悩みを話し合い改善に取り組みなければならぬ。

大宮支社は設備関係事務業務体制の見直しと称し、設備関係の事務業務をすべて集約するとし、今年六月一日より設備関係は全て、電気関係は共通業務のみ先行して集約され、大宮支社ビル内に設備総務センター、宇都宮には設備総務センター宇都宮分室が設置された。

超勤問題である。建築職場ではサービスマンが未だに後を絶たない。会社は行ったものはつけなさいと口では言っているが、仕事は次から次へと湧いて出てくる。特に今年にはオリンピック・パラリンピックの関係で業務は例年以上に輻輳をしている。要員が明らかに足りない。技術検証も進んでいない。

田中 勝次 (神奈川県本部・横浜運輸区)
横浜運輸区は状況。毎日のように遅れの出る京浜東北根岸線、安全問題について会社と話ができればと思つている。八月に新人車掌が配属になり九月一日現在で東労組が過半数を割り、社員過半数代表者選挙を行うことになった。分会で話し合った結果、何もせずに東労組と会社側の票の取り合いを見ているのではなく、職場の人たちに国労という選択肢も与えて、若い社員に国労を知ってもらふ機会と捉え、私自身立候補をした。今回の代表選出選挙を機に国労に目を向けてもらえよう、奮闘していく。



方針討論

須藤 忠 (上野支部・松戸車両センター)

昨年の中央線の車両改造に伴い緩行線の209系車両を転用することになり車両故障時に運用する予備編成がなくなった。車両故障時には超勤対応や休日出勤での対応など労働者への負担が増えている。職場ではJRの安定輸送に対する無責任な姿勢に多くの批判の声が出されている。今年の七月から三三系以降の新系列車両について総合車両センターに入場させて検査をする検査周期の延伸を実施し、コスト削減、安全軽視の施策を推し進めている。安全安定輸送の確立についての宣伝行動など取り組みの強化が求められている。



山崎 活司

(大宮地区本部・大宮建築技術センター)

経過報告

増野 喜代教

(八王子地区本部・八王子保線技術センター)

平成三〇年七月に実施されたメンテナンス体制の最適化の柱は、業務移管とさらなる機械化からなっており、第一に今まで保技セで行っていた業務を、通トンの低い線区に限定してパートナー会社に移管するという認定線区の導入である。今回は青梅線の青梅・奥多摩間の約二〇キロのエリアであるが、これ以降も拡大を図り、拝島派出の廃止も視野に入れている事も懸念される。

線路設備のモニタリング監視の導入。これは電車に装着されたカメラの映像を解析することにより巡視とみなし、大幅な巡回周期の延伸で要員を削減するものである。これらの施策によって、支社保線技術センターの要員は一六名の削減となっている。

団体交渉で、わずかでも労働組合として労働条件の改善を実現している事を職場の社員に伝えながら、労働組合が必要であると訴えていく事が大切であると考えている。保線部門の施策に対する要求書を東日本本部が本社に提出した。問題点の解消と

迎 入 武蔵小杉駅分会

国加 横浜電力技術センター分会

11/1付 42才 22才

山崎 活司 (大宮地区本部・大宮建築技術センター)

山田 克之(中央支部・東京工務事務所)

分会では毎週月曜日執行委員会を開催し、第三月曜日には班代表者会議を開催して全組合員に声をかけながら集まる場を継続して作っている。こうした声をもとに職場諸要求の申し入れをしている。要求としてはなかなか前進しないが、国労の存在を見せつけることが大切である。

昨年について三六協定締結に向けた三月代表戦では、分会としてその職場にいる組合員は全員立候補。職場の問題点、労働条件、要員問題そして私たち労働組合だからこそできるということを伝えながら取り組んできた。開票については当初からWeb投票で、得票数のみ公表するということがあったが、最終的には立候補者全員の得票を明らかにする要求をして実現させた。

エルダーの関係。会社は原則出向については変わらないと言っているが、今年度対象者については労組間わず、本体エルダーに。本人希望が受けられるような形でエルダーの労働条件とともに会社に要求をしていく。

五支部再編の関係。第七一回地方大会までに五支部がひとつの支部として統合を進めるとあるが、統合は早くも来年の大会後ではないのか。事務的な日程を含めて提案や提示をしてもらわないと混乱してしまう。是非丁寧な説明をお願いしたい。



織戸 康弘(大宮地区本部・南古谷駅)

変革2027では社員家族の幸せの実現を語っているが徹底したコスト削減は安全問題に直結し、無人化の拡大でサービスの切り捨てが社会問題化している。安心できるサービスを提供することができるよう配置を求めていくことが重要。

貨物問題と組織拡大について。JR貨物では劣悪な労働条件により若年退職に歯止めがかからず深刻な問題となっている。新賃金人事制度でも評価主義が導入されている。会社の姿勢に対ししっかりと対応でき

る労働組合として国労が職場の中で会社に改善を求めていくことが重要。分会での運動や取り組みの中で若手を国労に迎え組織拡大を勝ち取っている。

平和と民主主義を守る戦いについて。第二五回参議院選挙で与党と改憲勢力を合わせた席は三分の二に届かなかった。憲法改正断固阻止に向けて安倍政権を打倒しな

くならない。沖縄をめぐる状況は今年二月に県民投票が行われ、投票者の七割以上が辺野古新基地に反対をし、改めて民意が示された。安倍首相がすべきことは辺野古新基地を直ちに中止し無条件で普天間基地の返還へ動くべきである。戦争法制定の際に国会を取り囲んだように市民と野党と共に安倍政権を包囲し、憲法改正のもくろみを断念するよう望むべきである。

和賀 聖司

(八王子地区本部八王子信託通信技術センター)

職場の現状と問題について。私は二〇〇五年入社で国労に加入したのは二〇一八年三月である。東労組に加入していたが、大量脱退の時期に抜けた。これまでレクや飲み会そして職場で仕事きっちりする姿や安全に対する考え方、行動力などその人柄の魅力を感じて国労加入。若手のサービス残業の根本原因である、要員不足について仕事安全総点検から申し入れで改善を求めている。昇進試験を落とされてお

り、後から入社してきた後輩社員が上司になっっている現状である。公正公平な試験制度にするよう求めていく。過半数代表者について。助役一名、国労一名の立候補で二〇票獲得したが落選となった。この背景にはパソコンによるWeb投票の影響。過半数代表者の本来持つ目的を明確にするよう声を挙げて国労の魅力

を伝え安心して働ける職場を作っていく。組織強化拡大について。取り組みとしてバーベキューのレクや弁護士による学習会などを行った。加

入行動する中で



こちらから一方的に話を持ちかけるのではなく、話を聞いて引き出してあげることが必要だと実感した。五年のビジョンの中あ

と何年だからではなく一日一日が勝負である。一人でも多く加入者を増やし国労を存続させること、そして発展に尽力していく。

小澤 一雅 (神奈川県本部・横浜電力技術センター) 職場実態について。各系統ともに合理化により技術継承がなかなか進まない中でベテランが退職していくたびにその穴を埋めるのに超勤をしないと回らない実態。分会では毎月、執行委員会を開催し職場の問題点などを集約し現場長申し入れなども行い現場で改善できることは改善している。労働条件、安全、技術継承を若手に引き継ぐため国労の存在感をアピールし、運動として労働組合のあるべき姿を示し、労働組合の必要性を訴え続けている。

過半数代表選挙について。私と社友会幹事の科長が立候補。投票は技セ及び各メ

ンテナンスセンター単位で所長、メセ長の下で行われたが、助役が見ている前で投票させられ、誰が誰に投票したか管理者が把握できる状況であった。落選したが、国労組合員の有権者数二二名より、倍近い票があった。

組織拡大について。毎年新入社員対策行動として国労加入説明会を歓迎会と合わせて開催してきた。国労加入を訴えてきたが、どうしても国労を選んでもらえない状況が続いている。分会では何とか拡大しよう

と拡大対象者と関わるよう努力してきた。労働組合の必要性と労働三権など社友会では労働者を守れないということ

をアピールし拡大の取り組みに努めてきた。早川 義貴 (大井工場支部・東京総合車両センター)

私は平成二五年入社。同期の社員たちも状況が把握できないまま加入届に記入する中で私も東労組に加入した。ストライキになると上部機関と組合員の間で意見の違いが明らかになり東労組の組合活動への疑問と不満を感じ、東労組に見切りをつけた。国労の方から誘いを受け組合費などを説明

していただき国労加入。国労へ加入して感じたことは、団体交渉で国労は文章にして組合員に説明、本来あるべき組合だと感じ

た。小さくても大きくても国労の集まりを作り丁寧な話を聞きながら組合の良さを地道に話していくことが重要。私も勉強しながら国労の拡大につなげていく。

質上げについて。若い世代はお金があるしい休みが欲しいというのが多くの声。ゆとりある生活をする上での賃金の向上や家族のための特別休暇設定が求められると思

っている。諸手当をさらに充実、日々の生活水準を向上させるように上部機関に強く要請する。第二基本給は早くなくさないといけない。大幅賃上げと第二基本給撤廃を大いに宣伝した取り組みを起すことが今求められている。これらの要求を勝ち取ることは組織拡大に大きく繋がる

とされている。地方本部が強い指導性をもって取り組んでいた

だけくことを要請する。宇塚 史明 (大宮地区本部・JR T M大宮設備支店)

毎月、分会執行委員会を定期的に開催し、少ない組織であるが、全員で参加できることを考えながら取り組んできた。具体的に

は二月に行った社員代表者選挙である。国労でも存在アピールすることです。分会長が選挙に挑んだ。会社側は昨年代表になった助役が立候補し、東労組は役員が立候補。一回目の投票では過半数の一八八には誰も届かなかったため決選投票となり、助役が社員代表になった。来年に向けて議論していく必要があると思

大宮工場支部におけるOBのアスベスト健康管理手帳取得に向けての取り組み。六月二二日にアスベスト健康管理手帳取得者交流会を開催した。退職後は各個人で申請してアスベスト健康管理手帳を取得しなければならぬ。証明を発行するように日本本部と東日本会社で手続きができるよう

にしたい。上野 和彰 (新橋支部・大井町駅)

委託職場では管区で行うサービス勉強会の時、若手のプロパー社員だけ残され、ミス、トラブル、苦情が上がらないようにパワハラ的な指導が行われている。ミスや苦情は自分の責任として追及され、会社は守ってくれないと気付いても会社に対して不満を

言えない体制。プロパーの若手社員に対して、労働者意識を持たないと会社の奴隷になるしかなく、人間らしく働き生き続けられないこと、仲間が必要であり組合に入り仕事をしながら追求していくしかないと言

い続けてきた。今では私たちに相談することが多くなってきたが、会社の対応や管理者の目が怖いと加入までは至っていない。大井町駅の全面委託が二二月一日だと

提案がありプロパー社員やエルダー社員にも見習いが実施されるのか不安が広がっている。JRとJESSSに対して、要求書を作る準備を始めた、JESSSとのエリアでの交渉だと遅すぎるため、支店、管区との交渉もできるよう東京地方本部として早期にテーブルを作るよう要請する。

新橋、上野、中央、自動車、大井工場支部の再編について、各支部の分会や班も含め、労金の事務処理など、具体的な説明がない中で進んできた。納得する努力を続けるよう要請する。

佐藤 実雄 (自動車支部・JRバス関東小諸支店)

東労組の組織が弱体化する中、会社は組合不要論を唱え、労働組合つぶし攻撃をあらさまに行っている。「皆さんは組合ではなく会社を守る。国鉄を潰したのは労働組合である」といった発言を行い、労働組合に入っていること自体が悪いのかのような発言を繰り返してきた。私たち労働者は



団結権利があること、団結してこそ職場を守れること、各職場で宣伝活動やオルグ活動を積極的に行い、理解を求めながら労働組合への加入促進を進めなければならない。

六〇歳以降の再雇用問題。私のような出向社員はエルダー制度により六五歳まで再雇用契約をしているが、バス社員にはエルダー制度に代わる制度はなく、契約社員制度を適用して六〇歳以降の再雇用契約を結んでいるが、定年前と業務内容は同じで賃金は日給になり、職場により差があるが、8,000円前後である。同一労働同一賃金とはかけ離れた状態である。

六月に過半数代表者選挙が行われた。国労に投票してくれた人は「社員全員が労働組合を抜けて社友会に入ってしまうば労働組合法のなかつた戦前のような状態になつてしまふのではないか。職場に労働組合は必要」と話してくれた。



高瀬 弘人 (新橋支部・新日本橋駅)

社員代表者選挙で私が立候補し、相手候補者は社友会。私は政策ビラを作成。落選したが、その後安全推進委員により、二ヶ月に一回の割合で労働安全推進会議に毎回出席して意見交流をしている。職場環境改善を六点掲げてきた。すぐ改善されたものもあり、要求をしていくこと、諦めずに繰り返す行いが大切。職場内の不平不満を掴む努力、日常的な世話役活動をする中で物が言えない多くの未加入者を代弁することができるとは国労しかないことに自信と確信を持つことが大変重要。

安全安定輸送の確保について。変革2027での駅のあり方による合理化が進行している。私たち国労は安全が担保されないことへの不安、何よりも利用者が安心して利用できる確保という観点から異議を申し立てるべき。安全シンポジウムの開催やアンケートをもとにした地域の人たちも含めて、団体交渉、自治体交渉の開催も視野に入れた取り組み強化を要請する。

平和と民主主義について。安倍政権と補完勢力合わせても改憲発議三分の二に届かなかった先の参議院選挙の結果、国民は早急な改善を望んでいない。国民的な闘争を視野に闘いを強化し、改憲の火種を消すためにも国会内外、市民連合の皆さんとともに改憲の企てを阻止していこう。

保田 一 (神奈川地区本部・鴨宮駅)

私が働いている営業職場においては業務委託の拡大と遠隔システムの導入により要員削減となっている。労働者への負担は増大し、要員は増えない現状。それでは安全、サービスの低下になり、安定輸送の確立どころか大事故へとつながりかねない。労働者のゆとり、周りの環境、働きやすい職場づくりのために私たち国鉄労働組合が奮闘しなければならぬ。

国府津支部は大船支部と一緒に運動を進めている。国労の最重要課題でもある、組織拡大の取り組みが重要になっている。日常、分会の中で組織拡大のため、飲み会やレクリエーション、旅行を通じて関係作りをしているが、今一歩踏み出せないことを克服し、積極的に踏み出していることを重要だと感じている。支部としても組織拡大の取り組みを行ってきたが、拡大にはまだ至っていない。今こそ組合員一人ひとりが自信を持って、未加入者や職場の若い青年やエルダー社員にも声をかけて組織拡大に向け奮闘していく決意である。

平和と民主主義について。国民は先の参議院選挙で自民党などの改憲勢力に三分の二の議席を与えていない。改憲を阻止する世論と運動を高めることが急務。特に毎月の国会前行動に積極的に参加し、安倍政権を一刻も早く退陣させるため奮闘する。

坂本 尚允 (新橋支部・新橋保線技術センター)

私が勤めている新橋保線技術センターは、首都圏輸送の重要な役割を担っているが、モニタリングシステムが本格的に活用され、業務について変革が始まっている。大きく変化した点は、駅間の徒歩巡視の頻度が少なくなり、それに伴い、モニタリング巡視が増え、さらに現場調査が増加し一

人当たりの負担は増加している。モニタリングにより、多くのデータを活用できる利点はあるが、活用する以前に人員が根本的に不足。また、RPA、ロボティクスプロセオトメーションなどの現場導入が始まっている。業務負担の増加。責任に対して賃金が適正でない、少ないという声。しかしながら責任という重圧のもと超勤時にはサービス残業を行い、職務を遂行しているのが現状。我々国鉄労働組合が中心となって労働条件の改善を訴え、組合は社友会とは異なり交渉する権利がある。その権利を最大限に活用し、より良い職場を目指すのが課せられた義務。我々個々一人ひとりでは微力な力である。団結すれば強大な力ともなり得る。目の前の小さな課題から一つひとつ積み重ねていく。最後に大きな勝利を勝ち取るよう共に頑張ろう。



佐藤 賢一 (新橋支部・池袋駅)

池袋運輸区、乗務員の乗務距離が延長で仲間から体がきつい疲れが取れないなど。池袋のJESSからは詰所問題。現場からも管理者に声をあげているが、地本としても会社側にきちんと詰所設置の要求を強く訴えていただきたい。

職場での仲間作りについて。池袋の改札では社会人採用を中心にリーダー会議を行っている。着札袋を内勤まで運搬する担当があるが、この袋にパンパンに切符を詰め込むため、重たくて運ぶのが大変である。そこで私は貼紙をしたが、一向に改善されなかった。リーダー会議でこのことを言う点呼で周知。改善された。会社の組織を利用し自分たちが働きやすい職場をつくる、仲間を思いやるということを若い世代に伝えていくことも必要だと考える。

八・七支部四地区学習会について。各職場の共通の問題は要員が足りないこと。集まる、話し合うという基本をきちんとやる

うと提起された。そして社員代表選を闘う中で若い社員たちの労働者としての権利意識を高め、働きやすい労働条件やお互いに助け合える明るい職場、会社に物を言うのが労働組合だけであることを伝えるのが私たちの使命ではないかと講演された。今後学習交流会を継続し、私達の喫緊の課題である組織の強化拡大、そして少数ではあるが、国労加入してくれた若い仲間を支え、学び合いながら職場の中を活性化していく。

北岡 宏 (神奈川地区本部・神奈川臨海川崎貨物駅)

貨物会社では今年四月から新しい人事賃金制度が導入された。国労は昨年の九月の提案以降、疑問点をあげて会社と交渉を重ねてきた。分会では交渉の経過と結果を組合員へ返してきた。貨物労組はどのような交渉、経過となっているのか現場の組合員には全くわからない状態。国労掲示板を見たり、国労組合員に話を聞いたりする中で、組合員のために闘う国労の姿勢に共感し国労加入へとつながったと確信している。また、貨物会社と業務委託されている。また、貨物会社では要員不足が常態化している。四五歳以上の人に頼り、日々の業務をこなしているのが現状である。また貨物会社ではベアゼロの後、二年間ベースアップがあったが、三〇〇円、二〇〇円と低額回答。一〇月からは消費税も増税される。物価が上昇するなか実質賃金は目減りする一方である。これからも貨物会社を働きがいのある会社にするために国労が先頭に立ち、闘っていかねばならない。

安倍政権は平和憲法を改悪戦争できる国作りを着々と準備を進めている。平和憲法を守る多くの勢力と多くの市民労働者とともに我々の命、暮らしを守るための闘いを職場地域から進めなければならない。

村上 孝之 (大宮地区本部・小金井駅)

私の職場、小金井駅は初電より六時五〇分まで雀宮、石橋、自治医大の三駅を遠隔操作で対応、列車の遅延や機械のトラブルがある一人では対応が難しい状況。国労組合員は私一人のため状況をなかなか打開できないが、職場の若い人と問題点や不満

を聞き、話し合いながら現場管理者に申し入れを行っているところである。地区本部では青年部を対象に学習会やレク活動を行っている。レク活動では小山市でパーベキューを行い、他労組を含めた三〇名近い仲間が集まり、不平不満などを出し合いながら楽しい時間を過ごした。

鈴木 英二 (上野支部・金町駅)

政治課題について。先の参議院選挙では市民と野党の共闘の力で野党統一候補が勝利し、改憲勢力の参議院での三分の二を割り込む結果となった。平和憲法を守る闘いはこれから重要。業務委託については現在一三駅が全面委託、一部コーナー委託が八駅、さらには窓口廃止、遠隔操作システムが導入され実質、職員不在の時間帯もあり、利用者の安全確保も利用者任せの実態。国労として利用者、自治体、政党など広範囲に訴えて闘う必要がある。

組織強化拡大について。若い仲間が国労加入を決意し、一緒に活動しながら国労運動を次世代に引き継ぐ責任は私たちにある。未加入者が過半数を超えた現在、駅職場では少数ながら国労組合員が健在。未加入のままでは団体交渉の場はできない。労働組合にしか労働条件を抜本的に改善することはできない。職場過半数代表選挙を利用し、日常的活動を強化することが重要である。

国労加入を決意し、一緒に活動しながら国労運動を次世代に引き継ぐ責任は私たちにある。未加入者が過半数を超えた現在、駅職場では少数ながら国労組合員が健在。未加入のままでは団体交渉の場はできない。労働組合にしか労働条件を抜本的に改善することはできない。職場過半数代表選挙を利用し、日常的活動を強化することが重要である。

春闘について。純利益が上がっているにも関わらず、社員には還元されていないのが実態。二〇春闘では大幅賃上げを勝ち取るために全国単一組織のもと、統一要求統一闘争を繰り広げ、方針案にもしっかりと明記してあるストライキも視野に闘う体制づくりが急務である。また、本社前集会など目に見える集会なども是非とも検討を要請する。

松浦 功

(神奈川県本部・JESS大船駅)

私は七月一日から新規委託をした大船北口改札で現在勤務している。大船北口改札の問題点を中心に話していきたいと思っている。現在、大船北口改札は二微体制で勤務を行っていたが、一微一日勤という勤務に変更になることになっている。また七月一日から作業ダイヤを変えている。一微一日勤に変更になった場合、終電対応をするのが、遺失物預

り所に在籍する社員の人たちが終電の対応を行うというダイヤになっている。慣れるまでは、二人体制で北口改札の業務を行っているが、ポスの払い戻しの打ち方や窓口精算機の処理の仕方など大変苦労されている。また、駅構内の放送業務は北口の係が担当するということにもなっている。今後、一微一日勤の体制になった場合、普段改札等に慣れていない方が終電対応、酔客の対応、遺失物の登録、終電等の放送など複数行わなければならないとなり、事故の可能性が高くなる。今後、私たちは会社の一時的な作業ダイヤの変更や業務内容の変更等を断固阻止していきたい。



書記長集約

第一に組織強化拡大についてであるが、

組織の強化拡大は国労として最重要課題であるという事は言うまでもない。定年退職による組織減少は大変厳しい状況になっている。その反面、劣悪な職場実態に不平や不満の声があることから職場に組織拡大の目がないわけではない。職場には温度差がある現実もあるが、自分たちが何が出来るとかそういうことを求めていく、話を進める取り組みが重要になる。機関指示がなくても自発的に組織拡大に向けた創意工夫した取り組みを行っている職場がある一方で、取り組みに重い職場があるのも事実である。今日の発言のあった代議員から我々は学んでいかなければならない。組織拡大は今後青年労働者たちのためにも私たちが残された時間をしっかりと受け止めて拡大をしていかなければならない。国労運動の歴史と伝統をいかに掴み、そのようなことを引き継いでいかなければならない。若い人にそういった問題をつなげていかなければならない。なかなか厳しい情勢



の中ではあるが、全体で一歩前へ出るそういった取り組みを行い、国労本部が出している闘争指令1号が継続となつていくため、改めて組織拡大運動の展望をしっかりとしていこう。地方本部としても新体制の中から組織部を中心にプロジェクト対策チームを結成しながら、新たな取り組みの強化を進めていく。

第二点目は労働条件改善、安定輸送確立の闘い。 昨年の変革グループ経営ビジョン変革2027、業務改革と生産性向

八王子地区本部・平成採用者交流会

八王子地区本部は、一月四日に石和温泉において、平成採用者学習交流会を開催し、地区本部内の平成採用者と地区本部執行部、その他以前青年部時代に一緒に学習会をしてきた組合員も誘い、昔の資料なども使いながら交流を深めた。

最初に地区本部熊田委員長から国労は若い世代に運動を繋ごうとしていて、地区本部も精いっぱい取り組んでいきたい。同時に職場で改善・改良への取り組みを続けて、拡大に繋げていこう、また、国労本部、本間執行委員からもあいさつがされた。

続いて職場交流が行われ、職場実態や取り組みの突合せが行われ、「労働安全衛生委員会を使って、いろいろ改善しよう」としている。我々が改善しようとする前にやってくる「六〇歳でエルダー出向したくない

上として生産年齢人口が急速に減少していくことを踏まえて効率化の推進と技術革新をはじめとした業務の質的変革、設備のシステム、仕事のルールを思い切った切り替えることが進められている。引き続き、問題点をしっかりと私たちが受け止めて行かなければならない。私たちは施策に対しても働く者の立場、利用する人の立場から検証を重ねていかなければならない。トラブル発生や異常時などのマニュアルだけでは対応できない中で、機械は万能ではないことや、行き過ぎた効率化、合理化政策は安全の根拠を揺るがすものであり、安全を守る上で抜本的な改善を求めていかなければならない。

先日の団体交渉の中で高田馬場の駅が全面委託という提案があった。若い人たちが働きやすい職場の改善求めて行かなくてはならない。そのような取り組みの中から労働組合の必要性が広がっていくのだと思っている。引き続き、取り組みを強化していかなければならない。改めて、地方本部としても仕事安全総点検運動を軸に職場の取り組み、地区本部、支部で連携を取りながら進めていく。

第三として政治闘争の課題である。私



2027では、駅員は必要なく、アルバイトや警備員でOKになる」とこの先輩方がいなくなる、怖い事になる。パソコンによる業務が増え、わかりづらいなどの声が出された。

学習交流会のあと、夕食をとりながらの交流も行われ、団結を深める学習交流会となった。

決めていくことでご理解をいただきたい。全体的な発言に学び、特に青年労働者の発言、色々な取り組みからの仲間の変化、社友会が多い中での流れをどう作っていくのかという発言があった。改めて国労東京に結集する三地区本部五支部が結果していただき、更にもう一歩出るとする。

これからの医療の進歩を見据え、「生きるためのがん保険」を新しくします。

NEW/ 生きるためのがん保険 Days 1

アフラックは「生きるためのがん保険」No.1

アフラック 東京第二地区本部

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822